

2 学力向上アクションプランの具体例

横浜市立山下小学校
令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
『自らの生き方を切りひらく 子どもの育成』	<言語能力> <自分づくりに関する力>

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○様々な事象、場面において、問題や課題を発見し、意欲的に解決にむけて努力する子どもたちをめざします。 ○豊かな言語活動と実感を伴った理解を深め、問題や課題に対して、見通しをもち、取組みを振り返りながら、他とかかわりながら意欲的に取り組ませます。 ○学習のわかる楽しさを実感できる授業づくりを推進し、問題解決的な学習を充実します。 ○まちの「人・こと・もの」とのつながりを意識し、特色ある教育活動を進めるとともに、まちを愛する心を育てます。 ○規範意識や人権を尊重する心、社会参画意識を高めていきます。

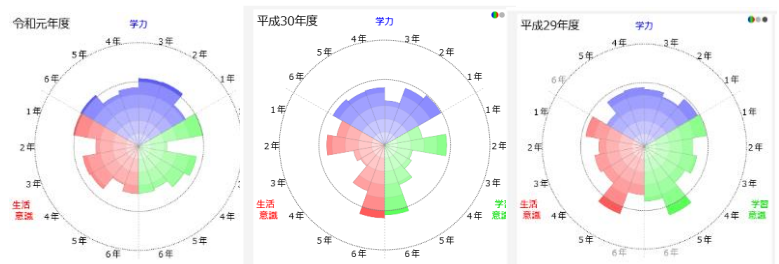
(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①習った言葉や学習のキーワードを使うなど、自分の考えや思いを伝える力、自分の考えを自分の言葉で伝える力を育成する。 ②自分と他者を比較する力や他者と自分を比較することを通して、共感したり反対意見をもったりすることで互いを理解する力を育成する。 ③一部教科担任制を効果的に取り入れ、確かな学力の向上を目指す。
担当	教務部

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

横浜市の平均よりやや下回る状況である。学習意識・生活意識は学年によってばらつきが多い。特に国語・算数の学習意識・生活意識が低い学年が多い。要因として児童の自己有用感の低さが関係していると考えられる。学んだことを「生きてはたらく知」としていくために、児童自身が目的や必要性を意識して学習に取り組んだり、他者と協同して問題を解決したりすることが大切である。



(2) 学力層を経年変化で捉えた分析

全児童の学力層を経年で捉えたときに、学力層Dは減少傾向にある。各教科における言語活動の充実を図り、個に応じた指導を進めるとともに、家庭との連携を大切に、多くの児童が「できた・わかった」を感じられるようにしたい。また、低から中、中から高になると学力層Aの割合が減少する傾向にある。授業の質の向上を図るとともに、複数の教員で児童一人ひとりのつまづきを丁寧にみとることができるようにしたい。

